



# 発達障害のある児童生徒の支援体制づくり 学校・医療・福祉・保健の連携と養護教諭の役割

保健福祉学部 看護学科

講師 沖西 紀代子（おきにし きよこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3414号室  
Tel (0848) 60-1269  
E-mail k-okinishi@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 学校保健学 学校看護学 地域看護学

キーワード： 養護教諭 養護教諭の研修ニーズ 健康教育  
児童生徒 特別支援 発達障害

## ● 主な取り組み・活動

近年、子どもたちの健康課題はますます複雑多様化しています。学校において養護教諭はその解決に向けて重要な責務を担っています。しかし、ほとんどの養護教諭は一人配置であり、新人でもベテランでも専門的な知識・技術を持ち、適切に対応することが求められています。

養護教諭がその状況に応じていくためには、現職研修を充実させる必要があると考え、養護教諭が必要としている研修ニーズについて調査を行いました。最も必要としていた研修は「メンタルヘルスに関する問題の理解と対応」や「集団に適應できない子どもの対応」であり、次いで「救急処置」でした。また、経験年数別・学校種別の研修ニーズに着目したところ、学校種により特徴があり、児童生徒の発達段階や課題に応じた内容で研修が構成されることを必要としていることも明らかになりました。養護教諭が変わらず必要とする内容と、個々の養護教諭の研修ニーズが満たされるような内容で現職研修を構成する必要性が示されました。

そこで、養護教諭の経験年数や学校種等の違いを考慮し、現職研修の内容をどのように構成することが必要なか検討を進めています。また、経験年数の浅い養護教諭のサポートを通して、新人養護教諭がどのようにして専門性を高め、キャリア形成につなげていくのかについても研究を進めていきたいと考えています。

## ● 今後の目標・抱負

ノーマライゼーションの理念に基づき、学校では、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援が行われています。（特別支援教育）しかし、障害特性の理解や対応方法の検討において学校の教職員は苦慮していることが多くみられます。

それを解決するためには、地域の医療・福祉・保健機関と連携した支援体制づくりが必要になってきていますが、実際にどのように体制づくりがなされ、機能しているか関心があります。

また、その中で入学前の乳幼児期の発達障害の子どもへのサポートを学校につなぐシステムの構築の実態や保健師、養護教諭の役割機能の実態について、今後の研究により明らかにしたいと考えています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

上記のテーマについて、地域の学校と連携して、発達障害のある児童生徒の支援において、医療・福祉・保健機関と連携した支援体制づくりについて研究を進めていきたいと思っています。

## ● これまでの連携事例・実績

養護教諭の研究組織や自主サークル等における講師や共同研究